

公益財団法人 オイスカ FURUSATO! 2月号

～オイスカ四国のふるさとづくり～



日本語の基礎研修を受けるベトナム技能実習生



2017年8月には高校生24人が研修を体験しました

オイスカは昨年6月の理事会で中期計画が承認され、計画に挙げられた一つが安定した財源確保による財政の健全化です。国内研修センターでは、海外からの要請による研修受入を通じた人材育成が活動の目的にあります。さらに各研修センターの特徴を生かした研修への取り組みが求められています。当センターではこれまで同様、地域開発研修を柱に農業、食品加工、調理等の研修の充実を目指していきます。海外でも幅広い知識とリーダーシップを持った人材が必要とされています。

また近年全国的に拡大傾向にある技能実習生の受入で、入国後必須とされる日本語を中心とした基礎研修の受託要請が各方面から寄せられており、実施することと管理費や宿泊費等により収入が見込まれます。今後これらの要請にも応えていきたいと考えています。

また同時に、国内外の大学生や青年を対象にした体験型短期研修の場としても開放していく予定です。こうした研修の受け入れや施設利用を積極的に進めていくことで、オイスカ活動の充実や課題とされている財政の改善に繋がるものと期待されます。(萬代)

2018年センター方針

記念石碑設置



左・香川県知事来所記念、右・センター50周年記念

昨年8月22日、浜田恵造香川県知事の研修センターへの来所を記念してハナミズキを植樹、また同じく10月19日には研修センター設立50周年を記念して敷地内の一角にクロガネモチを植樹しました。この度、ようやくそれぞれの記念樹に石碑を設置することができましたが、両石碑の設置にあたっては、四国支部石井会長より寄贈いただきました。ありがとうございました。

入所式の案内

今年も新しい研修生がやってまいります。各国よりそれぞれ目標を胸に、計7名の研修生が四国センターで研修をスタートします。皆さまへのご挨拶もかね、入所式を執り行いますので、ご案内申し上げます。

日時 3月3日(土) 午後2時

新研修生

- 農業指導 1名(インドネシア・男性)
- 家政 1名(ベトナム・女性)
- 地域開発 5名(フィジー・男性1名、マレーシア男女・各1名、メキシコ・女性1名、ミャンマー・女性1名)

研修生の入国日より日時を変更する場合がございますのでご了承ください。たくさんのご参加お待ちしております。



四国センター50周年記念イベント オイスカ四国大同窓会

開催決定!

3月28日にいよいよ50年を迎える四国センター。昨年10月の四国のつどいに合わせ記念式典を行いました。今回はオイスカヤングリーダーズが音頭を取らせていただき、「大同窓会」を開催いたします! 四国センターのこれまでのスタッフ、ボランティア、研修生OBを集め、報告会や夜桜パーティーを開きます。もちろん会員の皆様、ご興味のある方の参加も大歓迎! 協賛いただける方も大募集中です。

4月7日(土)、8日(日)四国センターでお会いしましょう!

※詳細は次号でお知らせいたします

四国研修センター50年の歴史 くはじまり編

今から57年前(昭和36年)オイスカインターナショナルの誕生と共に、国内研修センターの建設が各地で始まり、中部日本、西日本、四国、続いて富山にと次々に完成しました。四国香川県に研修センターが出来たのは、オイスカインターナショナル日本総局の会員の方々が多数居られたことに他なりません。とはいえ建設に至るまでには、土地探し、確保から関係者の涙ぐましい努力が注ぎ込まれました。そのような中、香南町にある冠櫻神社のご好意により、その境内の敷地にプレハブを建て、研修生の受入れへと向かいました。



昭和43年3月完成した初期のセンター

研修生の受入れは、当初は工業研修生の受入からスタートしましたが、やがて農業研修生の受入れも始まりました。当時外国人は珍しく、地域の方には不安を抱かれた方も少なくありませんでしたが、宮司の友安ご兄弟のご尽力により、だんだんと地域の方も理解と協力をして下さるようになりました。また、独特のキャラクターを持った研修生が多く、はじめに大変だったのは農業研修生が田んぼに入らないこと。不思議に思われるかもしれませんが、当時の研修生が思い描いた日本研修はきれいな教室で日本の高い技術を学ぶことでした。ところがオイスカの研修は現在も引き継がれる現場教室主義で、畑や田んぼと一緒に作業をしながら実践的に教えるスタイルに反発する研修生も多く、指導員を悩ませたものです。しかし、帰国前にはその意義を十分に理解し、ふるさとでオイスカの精神を伝える最初のリーダーとなってくれたのでした。(早川)



農業研修の様子。見覚えのある姿も...

月日	曜日	イベント名	主催・協力	場所
8日	木	四国支部常任幹事会	四国支部	四国支部
14日	水	農業技能評価試験	(一社)全国農業会議所	三豊市商工会
16日	金	長尾ライオンズクラブ例会家政研修発表	長尾ライオンズクラブ	トレスタ白山
20日	火	鴨島ロータリークラブ例会	鴨島ロータリークラブ	セントラルホテル鴨島
21日	水	県立農業大学校講義	県立農業大学校	県立農業大学校
24日	土	国際交流★親子料理講座	アイパルかがわ	四電プラザサンポート
25日	日	綾川町民綱引き大会	綾川町民綱引き大会実行委員会	綾川町総合運動公園

2月のイベント予定

「FURUSATO!」2月号 発行
 公益財団法人オイスカ四国研修センター
 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶 5179-1
 TEL 087-876-3333 FAX 087-876-3334
 E-mail: oiscastc@oisca.org

古本で!
 「子供の森」計画サポートプロジェクト

学校交流

～お互いを知って仲良くなろう～

デン研修修了、帰国

～また会いましょう！日本の農業、日本のオイスカ！！～



1月30日(火)、農業指導のデン(フィリピン)が2年の研修を終え帰国しました。

長女の出産に伴い、一時帰国していましたが、また四国センターに戻り、研修生の指導をしつつ、農業の勉強に勤しみました。以前、沖縄で研修した経験を活かし、農業機械や接ぎ木、土壌分析などを習得し、研修生にも教えていました。養鶏は責任を持ち、餌の配合や、雛の飼育、産卵数の管理など教えるだけでなく、責任感の向上や自分で考える力を養うことができました。また会員様との懇親、学生たちとの交流でも場を盛り上げるのに活躍し、研修生PRに重要な役割を担っていました。

農業指導OBは研修生という立場とスタッフの立場、両方の視点から自分がどう動き、それがどう影響するか考へながら、研修や指導に当たらなければならぬため、苦勞も多いですが、それくらい勉強になることが多いです。これからフィリピンのヌエバエシハで研修生指導をしつつ、自身でも農業の運営に取り組みます。まだ1歳の娘と一緒にふるさとでオイスカを盛り上げようと思っています。(矢野)



総会や交流などで自国のことやふるさとのこと、自分がどんな勉強をしているか話す機会を持つことで、日本で研修する意識を再認識するとともに聞いてくれている人たちに伝えることができました。



農業はどこの国でも大切なことは同じです。米や野菜を育む姿勢を研修生に率先して見せ、自分も更に勉強になるように努力しました。帰国してから自分がどのような農業をしたいか、ここでしっかり考えることができました。

1月18日(木)、高松市立山田中学校より1年生34人が四国センターに来所しました。学校で行っている「共生フィード学習」の一環で国際理解を目的にしたものです。この時期センターにいる研修生は少ないものの、その分研修生が大勢の学生を相手に内容の濃い話をする事ができました。また、外部からフランス人のエリズさんも交流に加わってくれました。午後の農作業ではじめて作業をする子どもも多く、教えるのに苦勞していましたが、一生懸命教えている子どもたちも協力して作業を進めてくれました。研修生も自分の国や今勉強していることを伝えたり一緒にしたりと、とても楽しくまた勉強にもなる交流となりました。(永山)

山田中学校交流

豊田小学校交流

1月24日(水)、観音寺市立豊田小学校へ行き、6年生19人と交流をしました。三豊推進協議会の片山副会長にも同席いただきました。始めに私がオイスカの説明をし、次に研修生のノラ(フィリピン)とアリン(マレーシア)が国の紹介を行いました。またフィリピン語とマレーシア語のありがとうなどを教えるとメモをとったり声に出して言ってみたりと興味を持って参加してくれました。その後小学生が英語で自己紹介をし、質問タイムへ。最後に興味津々だった言葉を使ったマレーシアのゲームも楽しんでくれました。

こうした交流の機会を何度も持つことで、学生の外国に対する興味や理解も深まってもらえればと思います。(国際ボランティア・園田)



日本で食べることができない果物や料理の写真に驚いていました。フィリピンのブタの丸焼きには、「すごーい！」とみんな大騒ぎでした。



農業指導のデン(フィリピン)が準備から進行まで担当し、子どもたちとナスの鉢上げなどをしました。

研修生に有機農業などについて教えながら、センターの発展にもつなげたいです！また、四国のみなさまにいい報告ができるように頑張りますので、これからも応援よろしくお願いたします！(デン)

★★帰国後の計画★★★

有機プロイラー & 給食プログラム



1. 有機プロイラー(肉鶏)プロジェクト

内容:有機飼料を使って安全なプロイラーを育てる

場所:ヌエバエシハ研修センター

目的:収入を得てセンターの活動をサポートすること

利点:養豚や養鶏に比べると、出荷の回転率が早く管理が簡単。安全なプロイラーを育てられる。

2. 学校給食プログラム

内容:センターで作った野菜で学校の給食を作る。安全で体にいい食べ物についてセミナーをする。

場所:ヌエバエシハ研修センター、地域の学校
目的:廃棄する野菜の量を減らす(市場が遠いため販売できない)、子どもたちに安全でおいしい野菜を食べてもらう

利点:センターの活動のPRにもなる。食べた人が健康になる。

四国三大学学生宿泊

1月20・21日、の二日間、四国三大学(高知大学、愛媛大学、香川大学)の学生が四国センターで宿泊し、事前研修会を行いました。大学のプログラムで、学生たちは今月インドネシアへ研修に行きます。センターでは毎年この時期に宿泊を受入れ、今年は4年目ですので準備、調理なども経験がありました。センターで何人かインフルエンザ、風邪にかかってしまいましたが、大変な一週間でもありました。

大学生は51名、先生は5名の宿泊、準備しました。初日の夕飯はスパイシーなチキンカレーにしたので食べられるかなあ:と心配しましたが、食事の後「美味しかった!」との声が聞こえ安心しました。その他にもセンターの野菜や卵でおいしい料理を作るなど、スタッフ、研修生、ボランティアの力を合わせて大学生をサポートできました。逆に研修会終了後は、大学生達に自分達が使ったベッドや布団などを片付けてもらいました。とても助かりました!準備からフル回転の一週間でしたが、無事に研修会も行われ、また助け合いという気持ちも改めて感じる事ができました。

これまでこの研修会に参加した学生で四国センターへインスターンに来たり、インドネシアのオイスカセンターを訪れてくれた人もいます。今後ともよい関係が続けばいいと思います。皆さんインドネシア研修行ってらっしゃい!またセンターにも来てくださいね。(ガデイ)

